



萩市須佐地域

公民館だより

須佐地域生涯学習推進
マスコット「まな坊」

令和8年

1月

第630号

※題字は昭和48年発刊第1号時のもの

集おう！学ぼう！
手をつなごう！

発行/須佐公民館 〒759-3411 萩市大字須佐4570-1 Tel.08387-6-2310 FAX08387-6-2030

弥富公民館 〒759-3302 萩市大字弥富下4043 Tel.08387-8-2044 FAX08387-8-2212

特定非営利活動法人 須佐元気なまちづくりネット

令和8年 ヘバトンタッチ！

賀心

NPO法人
須佐元気なまちづくりネット
設立10周年記念事業

須佐グラウンドゴルフ大会



お世話になりました



ホールポストに狙いを定めて…いけ～っつ！

《今月の話題》

○地域住民への感謝の思い…

交流グラウンドゴルフ大会開催……………1、3P

○令和8年に向け抱負を語る住民……………2P

○「子育て支援日記」戦争を生き抜く子ども時代……………5P

○公民館だよりでR7年を振り返る……………8P



2026 謹賀新年 令和8年への思い…

年初めは、公民館に出入りされておられる午（うま）年ほかの皆さんに、今年にかける抱負について伺いました。

馬のように駆けたいけど、歳（とし）だから、一歩一歩がんばって歩いて行きたい。
うま（馬）くいく年でありますように…。



午年 土谷美月
（山根丁東）

野球の試合で、ランニングホームランを打ちたいです。それから、試合で盗塁（とうるい）をいっぱいしたいです。

川口海凧（育英小4年）



はりきって

希望をもって

須佐で生きるぞ！



午年 添田 進

（二軒屋）

家族みんなが一年、健康で過ごせたらいいです。

また編み物、グラウンドゴルフ、パッチワーク、エコクラフトも頑張ります！



午年 弥重南椰子
（河原丁）

（ひびの暮らしが

え）顔であふれるように明るく元気を出したい

午年 弥富の年女（まさこ）

（弥富7区）

サッカーをがんばりたいです。思いっきり楽しい年にしたいなあ。

午年 工藤 雫

（育英小5年）

70代の扉を開けた今、敬天愛人（けいてんあいじん）を旨とし、健康で心豊かに生きられることを願い、農業に汗します。

午年 女山の朗

（弥富11区）



行動範囲を広げつつ、

人との会話を

楽しんでいきたいです。

国弘啓子（中津）

身体が元気なうちは、公民館など外に出て、友達とおしゃべりしたりして楽しく過ごしたいです。

午年 佐伯サツキ

（山根丁東）

健康を第一に考え、新しいことにチャレンジし、馬のように駆け巡りたいです。ヒヒーン！

午年 大野喜弘

（弥富10区）

世界中から、幼子の笑顔が失われることがありますように。私の一番の弱点「神経衰弱」に是非一勝できるよう頑張るぞ！

午年 まこまこしている

ひいばあ

（山根丁東）



「痛い、痛い」と言わずに仕事ができるよう、元気で頑張りたいです。

午年 五十嵐かず子

（水海）



NPO法人 須佐元気なまちづくりネット

設立10周年記念企画

(表紙)

感謝のグラウンドゴルフ大会



秋も終わりに近づく11月29日(土)、須佐グラウンドで「グラウンドゴルフ大会」が開催されました。

今回は、須佐公民館などの事業を受託されて運営している、NPO法人須佐元気なまちづくりネット(以下「須佐元気ネット」に省略)が今年、設立10周年を迎えたことから、日頃の公民館活動への感謝も込め、須佐元気ネット主催で、このグラウンドゴルフ大会を企画しました。

競技は個人競技とし、3位までの表彰と、参加者全員にもクジが用意されており、空くじなしの景品がもらえるうれしい企画となりました。開会式では、須佐元気ネット理事長の津守次一さん(前地)から、日頃の感謝と、この日の競技を大いに楽しまれて下さいと述べられました。



激励する津守次一さん



選手宣誓をする林和哉さん

その後、林和哉さん(山根丁東)が元氣よく選手宣誓をした後、早速競技に入りました。

今回は、須佐グラウンドをAコート(標準コース)とBコート(短縮コース)に分け、1チーム5、6人ずつのAとHの8グループに参加者を分け、ABそれぞれ2回ずつ、計4回を合わせた打数の少ない方から順に番号をつけました。

グラウンドの状態は、周りに草が多く、開会式が始まる前に少し草を刈ったのですが、それでも結構根が張り付いていて、コースによつては打ちづらいコースもありました。ホールポストに狙いを定めてボールを打つのですが、草に当たってボールが跳ね、違う方向にボールが行ってし

まうと、「あの草で曲がってしまってた」「あの草をよけようとしたんだけどなあ」「うまく行かんのう」などと、ちよつと愚痴を言いながらプレーされる方もおられました。それがまた面白く、参加者は、楽しんでプレーしていました。



上手にボールを転がす参加者

出てしまうと「あゝつ、しまったあゝ」と残念がる方もいました。当日は、須佐元気ネット会員やスポーツ振興会、また地域の方など45名が参加し、快晴の青空の下、会場は笑い声に包まれました。競技終了後は、上位3名の表彰の後クジ引きが行われ、ファンヒーターや電気ストーブ、カイロなどの冬用

の暖かな賞品や、お菓子、エコバッグ、ティッシュなど、空くじなしの賞品に皆さん喜んでいただきました。なお、大会結果は次のとおりです。



個人3位入賞の笑顔の記念写真

【大会結果】

優勝 宮内岩男(中津)
準優勝 和田光男(横屋丁)
3位 三浦 実(本町上)



豪華クジの景品の一部

公民館行事

師走のこんにやく作り 大奮闘!

毎年大好評のこんにやく作り。今年も弥富公民館と須佐公民館それぞれに、楽しくこんにやく作りが行われました。



〜弥富公民館〜
12月12日、弥富9区の齊藤洋子さんを講師にお迎えして、去年好評だった物作り教室「こんにやく作り」に9名の方が挑戦しました。

こんにやく作りの注意点として、「芽やピンク色の部分は、しっかりと取り除くこと」「茹であがったこんにやく芋の皮はきれいにむかなくて



炭酸を加えて混ぜる様子

も大丈夫」ーミキサーにかけた後や炭酸ソーダを入れた後は、泡立て器などでしっかり混ぜ合わせる」などいろいろと教えていただき、気を付けながら作られていました。

炭酸ソーダを入れた後の待ち時間に、齊藤さんが事前に作って下さったこんにやくで「きんぴら」と「おさしみ(柚子味噌)(柚子酢醬油)」を手分けして作りました。試食会では「やわらかくて美味しいね」などと皆さん絶賛されながら、美味しくいただきました。

こんにやく作りの最後の仕上げをし、茹で汁の中にできあがったこんにやくを、皆さん喜んで持ち帰りました。「また来年も作りたいね」と来年も期待する声が聞かれました。

〜須佐公民館〜

一方、18日に行われた須佐公民館では、14名が参加し3つの班に分かれ、一班2kgのこんにやく芋を使って、こんにやくを作りました。こんにやく作りは毎年この時期の恒例行事となり、今回は、受付開始日から3日ほどで参加人数がいっぱいとなるほど人気の高い教室です。

作る時間はかかりますが、「作ったこんにやくは、本当においしいね」といつも大絶賛の師走の行事となっています。



生き生き教室編

毎月1回地域内外を歩いている「歩こう会」。今年最後の歩き納めは、須佐公民館から二軒屋までの往復約8キロを歩きました。入り江周辺では、まだ紅葉が色づいている場所もあってとてもきれいでした。また、釣りを楽しまれておられる方も多くいました。

弥富公民館で作品展

11月12日から12月12日までの1か月間、第6回目の作品展を弥富交流促進センターで開催しました。

作品は、須佐地域の園児・児童・生徒と地域の皆さんの作品を合わせた95点が展示されました。

地域の方の作品の中には、ガンダムマスクやミクスストメディア(現代美術)、置物、着物の帯のバッグなど、珍しいものもありました。

展示期間中、鑑賞に来られた方にアンケートを書いていただくと「地域で日頃行われている活動の成果が見れてよかったです」「子ども達の

帰りは水海

から浦中を歩

いて帰りました。

参加者は

「意外と歩けたねえ」

「ちょうど2時間の

いいコースだったね」と満足げでした。

歩くことで体力も維持できるし、季節ごとにいろんな風景を見たり、発見もできたりします。

皆さんも一緒に歩きませんか?

☆お問い合わせ

須佐公民館 (☎62310)

夢のあふれるような絵、本当に素晴らしいです」「楽しみにしているので、数多く出展してもらえるとありがたいです」など、心温まる励ましの言葉を多数いただきました。

今後、この作品展を継続していきたいと思っています。



↑ 着物の帯で作られたバッグ
→ 段ボールで作られた、ガンダムマスク



二軒屋周辺で記念写真

子育て支援日記

テーマ／おじいちゃん、おばあちゃんの知恵袋
「厳しい時代を生きて…」

NPO法人須佐元気なまちづくりネット

理事長 津 守 次 一

昭和8年2月誕生。92才の私にとって一般論的には、人生の中で成長期に当たり最も変化し夢の膨らむ年代であると思っていました。現実の日記は大変むごいものでした。そこで、実体験や見聞を紹介します。

●第二次世界大戦に突入

昭和16年12月8日、米、英を相手に「撃ちてし止まん」の標語のもとに戦争が始まったのです。

私は小学校3年生で、十分理解することはできませんでしたが、何か社会生活、国民生活が激変する大きなうねりは感じました。

小学校から国民学校への変更、食料、衣服（もんぺの転化）の変化、配給制の導入等が次々と具体化して行ったと思います。

具体的な事例を紹介します。

○学校の運動場で「さつまいも」作りが始まる。

運動場の土は、掘り返すと石ころなどが無い良い土であり、深さ約1

m位、幅3m、長さ概ね10m位の穴を掘り、土は別の場所に盛り上げて「畑」を作り、掘った穴には校庭の隣の須佐川の石ころを

運んで投げ入れて、表面には土の一部を敷いて畑を作り「さつまいも」を栽培し、食料として活用していました。



○豪雨災害の復旧の手伝い

昭和16年6月に発生した豪雨災害の最大の対策は食料の確保です。高学年は梅1個が入った「むすび」1個の弁当と竹製のちりとりを持って参加しました。

○米の増産対策に稲の害虫駆除作業を行う

○防空施設設置の資材運搬作業
戦況不利な中で、高山山頂に緊急に設置する施設の資材（木材）運搬に、高学年の生徒が動員されます。

戦争後半期の学校授業の実態

○警戒警報対応

敵機（B29が主体）来襲が予想される場合に発令されるが、その場合、授業は中止され、教室床の下へ入っていました。後半には回数が多くなり、最初から床下で草履づくり作業や竹細工などを行っていました。

○空しゅう警報対応

空しゅう警報が発令されると、授業は一斉に中止し、校舎横の山に走り込んで非難します。

○竹槍（竹製のヤリ）による訓練

小学校の高学年からは登校時、竹ヤリを担いで列を作り登校しました。この竹ヤリの先端は尖（とが）らずに竹の棒を用いていました。

この竹ヤリは、最悪、敵が上陸した場合に戦う武器としたものです。学校で何度か一斉の訓練が行われました。

○出兵兵の見送り

須佐からも多くの兵士を戦地に送り出していますが、須佐駅前にも多くの住民が集まり、生徒も加わって出兵兵士を万歳三唱で送り出していました。

○敗戦前の社会生活の一端

高山山頂に存在する日本軍の施設からは、毎日のように食料調達にリヤカー（運搬車）に3人がかりで取

り組んでいました。

私の家は、海岸近くにあるので、調達班3名からよく「さつまいも」の蒸かしたものの確保要請があり、兵士は私の家から急坂になる手前で食べて、ハンドル1名、後押し1名、リヤカー前引き1名の姿が思い出されます。

○戦後の激変

昭和20年8月15日は、不幸な大東亜戦争は終わりました。封建的な社会から民主的社會への大転換です。

○終わりに

最も象徴的な体験を記して終わりにしたいと思います。

夏の酷暑の中、急傾斜の高山山頂への道をリヤカーで3人がかりで5「さつまいも」を食べながら、1時間以上の時間をかけて運搬する兵隊さん。

これに対して、荷台を連結したジープに1人乗って、ガムをかみながら、あつという間に上るアメリカ軍兵。このアメリカ兵のジープに向かって、竹ヤリで戦おうとした日本の軍力、方針は、今思えば強烈にして滑稽（こっけい）に思えてなりません。

子どもから大人への

成長期の重要な時期に遭遇した私にとって、大きな位置づけとなっております。





旧 須佐町中央公民館

ボランティア活動に

支えらながら

災害には盆休みはありませんでした。むしろ、盆休みに手伝いたい（ボランティア）須佐に行きたいという人は多く、職員も休んでいる暇はありませんでした。

こうしたボランティア活動は、大災害では大きな手助けとなり、萩市では、旧奈古高須佐分校体育館をボランティア活動の拠点として開放し、その支援は、萩市社会福祉協議会が行いました。

歴史民俗資料館の復旧は、主に近隣の市町村関係職員が振り分けられました。

民俗資料はまず一次避所へ

泥に塗れた民俗資料は、取り敢えず一時的に資料館本館のブルーシートの上に仮置きし、次に専門的な



資料館本館に集められた民俗資料

支持を待ちました。民俗資料の一部は、濁流で海まで流された物も多く、海に持って行かれた資料も少なくありません。民俗資料は、住民の皆さんの持ち込みも多く、失った数ははっきりしませんでした。結局残った資料数は約600点余りでした。残った資料だけは、きちんと修復し、保存しなければなりません。

盆が過ぎて、行政も通常業務に戻り、国立民俗学博物館や文化財保存学会などの専門的な立場の先生方が来られ、被災した資料の復活方法について指導頂きました。

まずは、泥に塗れた資料を洗い流すクリーニングから始まり、その大半の作業は、萩博物館やNPOまちじゅう博物館の皆さんのボランティアで行なわれました。資料に付いた泥は水洗いし、刷毛で泥を落とし、乾かすといった地道な作業です。



まだまだ暑い時期の作業でした

民俗資料安定化作業

乾いた資料は、カビや錆が発生しないよう、安定剤を塗り、また乾かすといった作業の繰り返しとなります。

ました。このような作業が約1ヶ月続き、資料は二次避難場所として、11月にボランティア作業の拠点となっていた旧奈古高須佐分校体育館が充てられました。



旧高校体育館に二次避難した民俗資料

この間にも、この災害で処分された家屋や蔵などから出てきた民俗資料が次から次へと持ち込まれました。こうして、失われた資料の復活も可能となり、特に失われた資料の中にあつた、ひな人形は多くの方から持ち込まれ、後に豪雨災害で失われた「我家のひな人形展」として毎年2月から開催されています。

つづく

ぶらぶらタムラ

まちあるき



タモリに負けずわが町を紹介

兵の活躍を平成28年11月に、当時須佐郷土史研究会会長西村武正氏（R8年1月逝去）が、解説なされています。

「禁門の変」とはなに…

はじめに、この「禁門の変」とは、どんなことを言うのでしょうか、少し解説いたします。

今年は、明治維新から162年を迎えます。明治維新を唱える人達の多くは、山口や鹿児島、あるいは高知くらいだと言われています。これは、幕末の勝ち組の見方であって、この見方は様々だと思います。

明治維新150年の節目の年であつた平成26年には、各地で様々な関係の事業が展開されました。

この須佐の明治維新についての足跡を辿って思い起こしてみたい。

この禁門の変（蛤御門の変とも言う）については、本紙ぶらぶらタムラのはじまりの時、初号でごく簡単に紹介致しておりますが、今回はこれを更に、深掘りをし、須佐との関りの深いことをご紹介して参ります。

「禁門の変」の解説については、この事件が発生してから150年の節目にあたり戦いの中核をなした、須佐領主益田親施公など、須佐

そんなことから、須佐地域の皆さんに知っておいてほしいことが一つあります。それは「この歴史の中で、須佐がなかったら、明治維新は、少し遅れたかもしれない」ということです。それだけ、先人たちは威厳と誇りを持って生きていたことを決して忘れてはならない事を最初に申し上げておきたいと思います。



京都御所「蛤御門」

「禁門の変」の時代背景

実は、明治になるまでは、天皇は京都に住んでいました。御所（京都市上京区）には6つの門があり、それを囲むように周囲に9つの門が

あります。その中の一つが禁門（正しくは新在家御門）と言われる門で、天皇がおられる聖域の門として決して開けることが出来ない門のため「禁門」と言われていたのです。ところが、天明の大火（1788）で始めて開門されたことにちなみ、「焼けて口開く蛤（はまぐり）」にたとえられ、蛤御門と通称呼ばれるようになりました。

これまで、御所の警備はそれぞれの藩が、受けもっていました。薩摩・会津藩のクーデターにより、長州藩は、御所から追放されることとなりました。冤罪（えんざい）を訴えるも、京都すら入京を許されず、元治元年（1864）「禁門の変」という大事件につながって行きます。

この「禁門の変」では、約300人に及ぶ多数の兵士が須佐から京都まで行進しました。交通の発達した現在でも、須佐から京都まで300人の人を連れて行くのは大変なこと。ただ集まって行くのではなく、殿様の命令で戦いのできる格好（鎧・兜を着けて）で行進する様子を思い浮かべて見て下さい。しかもゆつくりと歩くことはできず、京都の情勢は一刻を争う切迫したものでした。

皆さんにとって、昨年はどんな年でしたか？このコーナーでは、昨年どんなことがあったかを「公民館だより」で振り返ってみました。

●師走のみことマラソン大会

(R7年1月号)

厳しい寒さの中、70名が参加。いろんなエピソードの詰まったマラソン大会でした。



●「須佐地域公民館だより」が 全国公民館報コンクールで 3度目の「金賞」を受賞！

(R7年3月号)

住民目線で取り組んだ広報作りが評価され、R2年度、4年度、6年度と隔年で開催されているコンクールで3回連続の「金賞」に選ばれました。

●中学校の部活動が令和8年度から 変わります

(R7年6月号)

これまで、学校主体で行ってきた部活動が、令和8年度から地域で担っていくこととなります。すでに、須佐地域では、
・軟式野球（須佐クラブ）
・ソフトバレー（若者バレット）



・バドミントン（放課後スポーツ）として、地域で活動しています。

●「みこと号」本格的に始動！

(R7年9月号)

これまで自家用有償旅客運送実証実験として動いていた「みこと号」が、本格的に運行を開始することになった8月1日、須佐総合事務所前で記念出発式が行われました。



「みこと号」出発！

NPO法人須佐元気なまちづくりネットがこの事業を運営します。

●萩市合併20周年記念

須佐地域ふるさとまつり開催！

(R7年12月号)

11月3日・文化の日に須佐総合事務所の駐車場で開催され、約3500人が会場に集いました。

今年は、須佐出身のアニソン歌手、きただにひろしさんもステージで歌を披露されたり、餅まきにも参加され、会場は大いに盛り上がりました。



衛ちゃん

まちの駐在さん



Q：「1月10日は110番の日」と聞いていますが、110番通報する際に気を付けることはありますか。教えてください。

「お答えします」

須佐駐在所：衛藤豊文

110番は緊急ダイヤルです。

警察官を派遣するために必要なことを尋ねますので、落ち着いて教えてください。



●110番のまちがい発信に注意を

スマートフォンからのまちがい110番が増えています。

例えば、かばんやポケットなどに入れていて、何かにあたって110番するケースがあります。もし、誤って110番した場合は、すぐにまちがい電話であることを警察に連絡してください。

●緊急でない要件は#9110(相談専用電話)などへ

相談や問い合わせなどは、#9110（相談専用電話）や萩警察署に電話してください。

●いたずら110番の禁止

いたずらやうその110番通報は、法律に触れるだけにとどまらず、本当に助けが必要な方への対応に支障が生じますので、絶対にやめてください。

●「110番映像通報システム」の活用を

110番通報の際、通報を受けている警察官から、スマートフォンなどにより、事件・事故の画像や映像の送信をお願いする場合があります。ご協力をお願いします。

生涯学習作品コーナー

須佐美術展作品紹介



山根裕美 (浦東)



柴田眞雄 (水海)



年越しも初詣もないひとり居の
来る年祈り幸あればと

(山根丁東) ゆめはるか

ススキの穂俺をよぶよな招きして
秋風そよぐカルスト台地

(青葉台) 田村雅利

【短歌】

新米の前をスルーの秋寒し

(山根丁東) ゆめはるか



【俳句】

須佐の偉人伝 大塚均

106



大塚 均 (1911-1998)

富士箱根伊豆国立公園記念切手

昭和11年2月1日、富士箱根国立公園として指定された。昭和30年3月15日、伊豆半島地域が編入され、現在の富士箱根伊豆国立公園に名称が変更された。昭和39年に伊豆諸島地域が指定されて、現在では、東京・神奈川・静岡・山梨の一都三県にまたがる富士箱根伊豆国立公園となり、「富士山」「箱根」「伊豆半島」「伊豆諸島」の4つのエリアで構成されています。

昭和37年1月16日5円記念切手が発行された。大塚均50歳の作品です。



このコーナーでは、切手デザインの大家である大塚均(山根丁東出身)さんがデザインされた約120点の作品を随時紹介していきます。

切手カバー図案も合わせてお楽しみ下さい。

2026 1月 地域カレンダー				須=須佐公民館 学=学校・保育園行事 子=子ども対象行事	弥=弥富公民館 ス=スポーツ関係 弥G=弥富グラウンド	=生き活き教室 保セ=保健センター
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
				① 元日	② ■二十歳のつどい (萩市民館) ←公民館休み→	3 
4 ←公民館休み→	5 公務始め 	6 弥ワカサギ釣り 7:00	7 つどい会 9:30 須スマホクラブ 13:30	8 須習字教室 小・中学校始業式	9 手芸クラブ 9:30 囲碁・将棋 13:30	10 ■弥富どんと焼き 9:30
11 ■消防出初式 11:00	12 成人の日	13 エコクラフト 9:30	14 歩こう会 8:45 須色えんぴつ画 13:30	15 生き活き体操 8:45 育英小参観日	16 ■人権・行政相談(須佐)	17 
18 ■ニューススポーツ 研修会 10:00	19 麻雀クラブ 13:00 ピンポンクラブ 13:30	20 	21 須パッチサークル 9:30	22 須あおば勉強室 13:30	23 手芸クラブ 9:30 囲碁・将棋 13:30	24
2家庭の日	26 須スマホ相談所 9:00 エコクラフト 9:30 弥さつき学級 10:00 麻雀クラブ 13:00 ピンポン・ボッチャ 13:30	27 須パッチサークル 9:30	28 須色えんぴつ画 9:30 弥ゴルフを楽しむ会 9:30 音楽療法 13:30	29 須さつき学級 13:30	30	

伝言板

●須佐あおば勉強室

「フェルトでくす玉作り」

○とき 1月22日(木)

午後1時30分から

○ところ 須佐公民館

○持参物 材料費300円、はさみ

○申込み 1月16日(金)までに

須佐公民館 ☎2310へ

●弥富さつき学級

「身体を癒して心地よい自分へ」

○とき 1月26日(月)

午前10時から

○ところ 弥富交流促進センター

○講師 リン・パケアマネージャー

○申込み 1月19日(月)までに

弥富公民館 ☎2044へ

●須佐さつき学級

「ボードゲームを体験会」

○とき 1月29日(木)

午後1時30分から

○ところ 須佐公民館

○持参物 会費100円

○申込み 1月23日(金)までに

須佐公民館まで

※ふるってご参加下さい。



毎月第3日曜日は「家庭の日」
今月は『19日』です
 ★家族みんなで過ごしましょう！

須佐地域の人口 (R7.11月末現在)

	世帯数	人口	前月比
須佐	914戸	1,596人	(△10人)
弥富	205戸	384人	(△1人)
合計	1,119戸	1,980人	(△11人)
昨年比	世帯数△28人	人数△85人	

編集後記

皆さん、あけましておめでとうございます。令和8年も皆様のご支援を得ながら、いろいろな事業を進めてまいりたいと思いますので、よろしく願います。さて、今年は60年に一度しか巡ってこない「丙午(ひのえうま)」の年でもあり、情熱や行動力が高まり勢いのある一年だとも言われています。

自分の目標や希望が、一気に動き出す、そんな年であればいいですね。そのためには、みんなが健康を維持し、元気になる年にしたいですね。 E・O